

作成日: 2009 年 1 月 20 日
改訂日 (V. 6BC): 2023 年 8 月 7 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: 日農クリンチャージャンボ

会社名: 日本農薬株式会社
住 所: 〒104-8386 東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 8 号 京橋OMビル
担当部門: 環境安全・品質保証部
TEL. 050-3490-3494
e-mail: kankyuanzen@nichino.co.jp
緊急連絡電話番号: (平日) 050-3490-3494 (環境安全・品質保証部)
(休日、夜間) 04-2929-8961 (A L S O K)
推奨用途及び使用上の制限: 農薬(除草剤)、農薬登録の範囲外の使用は不可
SDS 番号: 508-47(M09-01)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 3

ラベル要素

絵表示又はシンボル: なし
注意喚起語: なし
危険有害性情報: 長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き: 【安全対策】
環境への放出を避けること。
【廃棄】
内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分: 混合物

有効成分化学名(一般名):

ブチル(4)-2-[4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ]プロピオ
ナート (一般名シハロホップブチル)

成分及び含有量:

成 分	含有量	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
シハロホップブチル	1.8 %	122008-85-9	4-(7)-1745	—
〈その他〉				
その他の成分	98.2 %	—	—	—

4. 応急措置

必要な応急措置

一般的アドバイス:

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。

吸入: 新鮮な空気のある場所へ移動させる。呼吸停止の場合は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

皮膚接触: 汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で 15~20 分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

眼に入った場合: 眼を開いたまま 15~20 分間でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5 分洗浄してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

飲み込んだ場合: 中毒情報センターに連絡するか直ちに医師の診察を受ける。可能なら一杯の水を少しずつ飲ませる。医師の指示がない限り吐かせない。意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状: 上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項:

特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤:

水噴霧または散細水。 粉末消火器。 二酸化炭素消火器。 泡消火剤。

使ってはならない消火剤:

データなし

特有の危険有害性

有害燃焼副産物:

火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。 燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 塩化水素。 酸化カリウム

異常な火災および爆発の危険:

熱い液体に直接放水すると、激しい蒸気の発生や噴出が起こることもある。

消防士へのアドバイス

消火手順: 環境に対する影響を最小限にするため、制御焼却を検討する。 制御できない水が汚染を広げるおそれがあるため、泡消火剤が望ましい。 直接棒状放水しない。 火災を広げるかもしれない。 人の保護や建物の損害を最小限にするために、燃焼する液体を水で流して移動させることもできる。 静かな水噴霧は、消火用ブランケットとして使用できる。 可能なら消防水の流出を防ぐ。 消防水の流出を

防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。本 SDS の「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。

消火を行う者の保護:

陽圧式自給式呼吸器 (SCBA) および防火服 (防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む) を着用する。消火活動の際、この物質との接触を避ける。接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。もしこれらが無い場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

流出物の風上にいること。漏れたり流出した場所を換気する。適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項:

土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目 12 の環境影響情報を参照。自然の水路に漏洩するか放出されると、水生生物を殺す可能性が高い。

封じ込め及び浄化の方法及び機材:

可能なら、漏出物は回収する。少規模の漏洩: 掃き取る。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 本薬剤に使用しているフィルムは水溶性のため、ぬれた手や汗ばんだ手で触らない。子供の手の届かないところに置くこと。飲み込まない。眼、皮膚、衣服との接触を避ける。粉じんやミストの吸入を避けること。取り扱った後は十分に洗うこと。容器を閉じて保管すること。使用時には換気を十分に確保する。項目 8 のばく露防止及び保護措置を参照。

保管: 水溶性フィルムに包装されているので湿気に注意し、容器を密閉して、換気のよい乾燥した冷暗所に保管すること。納品時の容器でのみ保管する。食品、食材、医薬、飲料水の近くに保管しない。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

ばく露防止

工学的制御:

空気中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具**呼吸用保護具:**

許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である：防塵フィルター付き有機ガス用。

手の保護具:長時間または何度も繰り返し接触する可能性がある場合は、この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。手に切傷または擦過傷がある場合は、短時間の暴露であっても、この物質に耐薬品性の手袋を使用すること。

望ましい手袋の素材の例：ポリ塩化ビニル (PVC またはビニル)。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム (ニトリルまたは NBR)。注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具:安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。眼の不快感を引き起こす粒子に暴露する可能性がある時は、ケミカルゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具:

清潔で、長袖の、全身を覆う衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質**外観**

物理的状态	固体 (水溶性フィルム包装)
色	白
臭い	無臭
臭いの閾値	データなし
pH	6.8
融点/範囲	49 ° C 文献
凝固点	データなし
沸点 (760 mmHg)	363 ° C 文献
引火点	密閉式引火点試験 適用なし。
蒸発速度 (フenchilacetate=1)	データなし
燃焼性 (固体、気体)	データなし
爆発範囲の下限	データなし
爆発範囲の上限	データなし
蒸気圧	8.8 hPa @ 20 ° C 文献
相対蒸気密度 (空気=1)	データなし
比重・相対密度 (水=1)	1.2375 @ 20 ° C 文献
水溶性	0.0007 g/L 文献
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
自然発火温度	データなし

分解温度	データなし
動粘度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
液体密度	データなし
かさ密度	データなし
分子量	データなし

注記：上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性： データなし

化学的安定性： 安定している。

危険有害反応可能性：

重合は起こらない。

避けるべき条件： 高温にさらされると製品は分解する。

混触危険物質： 酸化剤との接触は避ける。 強酸との接触は避ける。

危険有害な分解生成物：

分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない： 一酸化炭素。 二酸化炭素。 塩化水素。 窒素酸化物。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性

急性毒性（経口） 誤飲した場合、弱い毒性を示す。 通常の作業での誤飲では傷害は起こらないであろう。ただし、大量に誤飲すると傷害を引き起こすことがある。過剰暴露は下記の症状を引き起こすことがある：

消化器刺激作用。

LD₅₀, ラット, オス, 4126 mg/kg

LD₅₀, ラット, メス, 3940 mg/kg

急性毒性（経皮） 長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。

経皮 LD₅₀ は決定されていない。 成分の情報による：

LD₅₀, ウサギ, > 2000 mg/kg 推定値。

急性毒性（吸入） 粉塵は上部呼吸器官（鼻や喉）を刺激するかもしれない。 長期間粉塵に過剰暴露すると、有害影響を起こすことがある。

製品として。 LC₅₀ は決められていない。

皮膚腐食性／刺激性

長期間接触すると、局所発赤を伴う皮膚刺激作用を起こすことがある。

繰り返し接触により、局所発赤を伴い皮膚を刺激することがある。

皮膚に擦過傷（搔傷ないし切傷）があると、より重症な反応を示すことがある。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

固形物ないし粉塵は物理的に眼を刺激したり、角膜を損傷したりすることがある。有害影響は治癒に時間がかかるであろう。

感作性

有効成分について：

モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性： 関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

特定標的臓器毒性、反復ばく露

有効成分について：

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：

肝臓。腎臓。胆嚢。

主成分について：

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：

消化器官。心臓。腎臓。

発がん性

有効成分について：動物試験では発がん性はなかった。主成分について：動物試験では発がん性はなかった。

催奇形性

有効成分について：実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。動物試験で、催奇形性はなかった。主成分について：動物試験で、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

生殖毒性

有効成分について：動物試験では、生殖を阻害しなかった。主成分について：関連のあるデータは得られていない。

変異原性

有効成分について：動物遺伝毒性試験は陰性だった。主成分について：インビトロ遺伝毒性試験の結果は陽性であった。しかし、ヒトに対するこの妥当性はわかっていない。

吸引性呼吸器有害性

物性上、吸引性呼吸器有害性は低い。

毒性分析に影響を与えるコンポーネント：

シハロホップブチル

急性毒性（吸入）

長期間暴露しても有害影響を起こすとは预期されない。入手可能なデータによると、麻酔作用は見られなかった。入手可能なデータによると、呼吸器への刺激は見られなかった。

LC₅₀, ラット, オスおよびメス, 4 h, 粉じん/ミスト, > 5.63 mg/l この濃度では死に至らない。

その他の成分

急性毒性（吸入）

LC₅₀ は決められていない。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性**魚類に対する急性毒性**

有効成分について：物質は、水生生物に対して高い急性毒性を示す（試験した種のうち最も感受性の高い種で LC₅₀/EC₅₀/EL₅₀/LL₅₀ 0.1~1 mg/L）。主成分について：水生生物に対する急性毒性はないと考えられる。

地上生物に対する毒性

物質は事実上、鳥に対して急性毒性を示さない (LD₅₀ > 2000 mg/kg)。物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない (LC₅₀ > 5000 ppm)。

残留性・分解性

シハロホップブチル

生分解性: 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

10-day Window: 不合格

生分解: 40 %

曝露時間: 29 d

方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 1.93 mg/mg

水中での安定性 (半減期), 7 d

光分解性

大気中半減期: 5.88 h

方法: 測定値

その他の成分

生分解性: 関連のあるデータは得られていない。

生体蓄積性

シハロホップブチル

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

n-オクタノール／水分配係数 (log Pow): 3.32 測定値

生物濃縮因子 (BCF): < 7 魚類 28 d 測定値

その他の成分

生体蓄積性: 関連のあるデータは得られていない。

土壌中の移動性

シハロホップブチル

土壌中移動性は比較的小さいと考えられる。(Koc > 5000)

分配係数 (Koc): 5247 測定値

その他の成分

関連のあるデータは得られていない。

オゾン層への有害性

シハロホップブチル、その他の成分

これらの物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

シハロホップブチル

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性 (vPvB) があるとは考えられていない。

その他の成分

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法：廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。以下の情報は購入時の状態のときのみ適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を決める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID) :

Not regulated for transport

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG) :

Not regulated for transport

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO) :

Not regulated for transport

1 5. 適用法令

農薬取締法

消防法：適用なし。

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物：適用なし

名称等を表示すべき危険物及び有害物：適用なし

毒物及び劇物取締法：適用なし。

化学物質排出把握管理促進法(化管法)：

指定化学物質：シハロホップブチル(第一種・管理番号 361)

1 6. その他の情報

参考資料：安全データシート「クリンチャー 1 キロ粒剤」(ダウ・アグロサイエンス日本㈱ 2020 年 10 月 16 日発行)

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。